



東京女子医科大学学術リポジトリ
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

重症筋無力症における味覚障害と抗電位依存性カリウムチャンネル(Kv)1.4抗体

著者名	蒲澤 千昌
発行年	2014-01-24
URL	http://hdl.handle.net/10470/30341

主論文の要旨

重症筋無力症における味覚障害と抗電位依存性カリウムチャンネル(Kv)1.4抗体

東京女子医科大学神経内科学教室

(主任：内山真一郎教授)

蒲澤 千昌

東京女子医科大学雑誌 第83巻第4号 242~248頁(平成25年8月25日発行)
に掲載

【要旨】

近年、重症筋無力症(MG)患者に新規抗体が報告され、その一つである抗電位依存性カリウムチャンネル(Kv)1.4抗体はMGの重症度と関連すると言われている。MGの非運動性障害の一つに味覚障害が報告されているが、有症率や発症機序は不明である。多施設共同研究によりMGの味覚障害を検討した。2010年5月から9月に多施設共同研究登録施設から305例(男:女=109:196,平均56.4±16.9歳)のMGを抽出、味覚障害の有無、最重症時のMGFA分類、球症状、クリーゼの有無、胸腺腫、内服歴を確認し、抗アセチルコリン受容体(AChR)抗体、抗Kv1.4抗体を測定した。305例中13例(4.3%)に味覚障害を認めた。味覚障害のあるMGで抗Kv1.4抗体は7例(53.9%)で陽性、胸腺腫は9例(69.2%)であり、味覚障害のない患者と比較し、有意に多かった。特に9例(3.0%)はMGとの関連が強かった。味覚障害は甘味障害主体の解離性味覚障害で、5例は筋無力症状に先行し、7例は筋無力症状と味覚障害の相関があり、4例は胸腺腫の再発があった。5例でMG治療と共に味覚障害が改善した。味覚障害を合併したMG患者では胸腺腫、球症状、クリーゼ経験が多く、これらは抗Kv1.4抗体陽性者に特徴的な所見で、味覚障害患者では抗Kv1.4抗体陽性者が多いことから、抗Kv1.4抗体陽性MGの特徴を反映している可能性がある。MGの味覚障害は甘味障害が主体であり、甘味受容体を選択的に障害するような物質の存在が推定され、胸腺腫との関連が考えられた。